

## (2024) 1 級試験用レジュメ① [観心本尊抄]

※ このレジュメは、『教学研鑽のために観心本尊抄第2版』のうち、出題されそうな部分を抽出したものです。「第2版〇頁」との記載は、同書のページ数です。

### 本抄の背景・大意

#### ○背景 (第2版9～10頁)

「観心本尊抄」は、文永10年4月25日、日蓮大聖人が52歳の時、佐渡流罪中に一谷で御述作になり、下総国葛飾郡八幡荘若宮の門下・富木常忍に宛てて送られた御書。

「開目抄」(人本尊開頭の書)は、日蓮大聖人が法華經に予言されたとおりに実践された末法の「法華經の行者」であり、末法の衆生を救う主師親の三徳を具えられた末法の御本仏であることを明かしている。これに対して、「観心本尊抄」(法本尊開頭の書)は、末法の衆生が成仏するために受持すべき南無妙法蓮華經の本尊について解き明かしている。

#### ○構成 (第2版11～14頁)

「観心本尊抄」の内容は、四つの大段に分けられる。

大段第一「一念三千の典拠を示す」(第1～4章)では、天台大師の『摩訶止観』第5巻上の文を掲げ、一念三千の文証を示されている。

大段第二(1)「観心を明かす」(第5～16章)では、「観心の本尊」のうち「観心」について明かし、受持即観心の法門が説かれている。

大段第二(2)「本尊を明かす」(第17～30章)では、末法の私たちが信受すべき「本尊」について明かし、釈尊の説法を五重(5つのレベル)にわたって序分・正宗分・流通分の三段に分けた五重三段を通して、南無妙法蓮華經こそが根本の教えであることを示している。

大段第三「総結」(第31章)では、本抄の結論が示されている。

#### ○題号 (第2版15～16頁)

「観心本尊抄」の正式な題号は「如来滅後五五百歳始観心本尊抄」である。この題号は「如来の滅後 五の五百歳に始む観心の本尊抄」と読み下し、時・応・機・法の四義が具足している

時 (仏が世に出現する時のこと) … 「如来の滅後」「五の五百歳」

応 (衆生の機根にに応じて出現する仏の振る舞いのこと) … 「始む」

機 (仏の出現を感ずる衆生の機根のこと) … 「観心」

法 (仏が説き広める法のこと) … 「本尊」

(過去問) ①本抄が執筆された年月日および②正式な題号を書きなさい。

(解答) ①文永10年4月25日 ②如来滅後五五百歳始観心本尊抄

(過去問) ①本抄はどこで執筆されましたか。地名を答えなさい。また、②本抄は誰に宛てて送られたものですか。

(解答) ①佐渡の一谷 ②富木常忍

(過去問) 摩訶止観は□が講述し、弟子の章安が記録した書です。□に入る正しい言葉を書きな

さい。

(解答) 天台

## 大段第一 (一念三千の典拠を示す)

### 第1章 (摩訶止観第5巻の文)

◎出題されそうな御文 (第2版21頁)

○ 摩訶止観第五に云わく「夫れ、一心に十法界を具す。一法界にまた十法界を具すれば、百法界なり。一界に三十種の世間を具すれば、百法界には即ち三千種の世間を具す。この三千、一念の心に在り。もし心無くんば已みなん。介爾も心有らば、即ち三千を具す乃至ゆえに称して不可思議境となす。意ここに在り」

(過去問) 第1章で、日蓮大聖人は一念三千の典拠として、第五の文の一節を掲げられています。

には書名が入ります。正しい言葉を書きなさい。

(解答) 摩訶止観

(過去問) 「夫れ、に十法界を具す。一法界にまた十法界を具すれば、百法界なり。一界に三十種の世間を具すれば、百法界には即ち三千種の世間を具す。この三千、一念の心に在り。もし心無くんば已みなん。介爾も心有らば、即ちを具す乃至ゆえに称して不可思議境となす。意ここに在り」に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 一心、三千

(過去問) 「夫れ、一心に①を具す。一法界にまた①を具すれば、百法界なり。一界に三十種の②を具すれば、百法界には即ち三千種の②を具す。この三千、一念の③に在り。もし③無くんば已みなん。介爾も③有らば、即ち三千を具す乃至ゆえに称して不可思議境となす。意ここに在り」①～③に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) ①十法界 ②世間 ③心

(過去問) 本抄の冒頭に挙げられた、「一念三千」を示した『摩訶止観』第5巻の一節を挙げなさい。

(解答) 夫れ、一心に十法界を具す。一法界にまた十法界を具すれば、百法界なり。一界に三十種の世間を具すれば、百法界には即ち三千種の世間を具す。この三千、一念の心に在り。もし心無くんば已みなん。介爾も心有らば、即ち三千を具す乃至ゆえに称して不可思議境となす。意ここに在り

### 第4章 (一念三千は有情と非情にわたる)

◎出題されそうな御文 (第2版38頁)

- ① 百界千如は有情界に限り、一念三千は情・非情に亘る。
- ② 天台の難信難解に二つ有り。一には教門の難信難解、二には観門の難信難解なり。
- ③ 爾前の諸経には二乗と闡提とは未来に永く成仏せず、教主釈尊は始めて正覚を成ず。法華経迹本二門に来至したまい、彼の二説を壊る。

◎解説 (第2版45～46頁)

○教門の難信難解…法華経の教えが爾前経の教えと相反することによる信解の難しさ

具体的には、①爾前経では二乗は永遠に成仏しない(二乗不作仏)とされていたが、法華経迹門で二乗作仏が説かれたこと、②爾前経と法華経迹門では釈尊は始成正覚の

仏とされていたが、法華經本門くおんじつじょうで久遠実成が説かれたこと。

○観門くわんもんの難信難解…非情ひじょうにも色心しきしんの二法じゅうによぜ・十如是そなが具しんげわるといふ信解しんげの難しさ

大聖人は、草木そうもく（非情）に色心の因果を認め、草木成仏そうもくじょうぶつが説かれて初めて、木像もくぞう・絵像えぞうを本尊ほんそんとすることが成り立つと述べられている。

（過去問）百界千如と一念三千との差別について、日蓮大聖人は、どのように仰せられていますか。

（解答）百界千如は有情界に限り、一念三千は情・非情に亘る。

（過去問）第4章では、百界千如と一念三千の違いについて、「百界千如は有情界に限り、一念三千は□に亘る。」と述べられています。また、天台の難信難解について、「教門の難信難解」と「□の難信難解」があることが論じられています。

イ. □に入る正しい言葉を書きなさい。

ロ. 下線部「教門の難信難解」の内容として、大聖人は具体的に2つの点を挙げられています。1つは、爾前経では二乗は永遠に成仏できないと説きながら、法華経迹門では「二乗作仏」を説く点です。もう1つの点は何ですか。

（解答）イ.（順に）情・非情、観門　ロ. 爾前経と法華経迹門では始成正覚を説きながら法華経本門では久遠実成を説いたこと。

（過去問）「天台の難信難解に二つ有り。一には□の難信難解、二には観門の難信難解なり。」

イ. □に入る正しい言葉を書きなさい。

ロ. 下線部「観門の難信難解」は、ここでは具体的にどのようなことを指していますか。説明しなさい。

（解答）イ. 教門　ロ. 非情に色心の二法・十如是が具わっていることが難信難解であること

## 大段第二(1)（観心を明かす）

### 第5章（観心の意味）

◎出題されそうな御文（第2版48頁）

○観心くわんしんとは、我が己心わ こしんを観じて十法界じっぼうかいを見る、これを観心くわんしんと云うなり。譬たとえば、他人たにんの六根ろっこんを見るときみといえども、いまだ自面じめんの六根ろっこんを見ざれば自具じぐの六根ろっこんを知らず、明鏡みょうきょうに向かうむの時とき、始めて自具じぐの六根ろっこんを見るがごとし。

（過去問）第5章で大聖人は、「我が己心を観じて十法界を見る、これを□と云うなり。譬たとえば、他人たにんの六根ろっこんを見るときみといえども、いまだ自面じめんの六根ろっこんを見ざれば自具じぐの六根ろっこんを知らず、□に向かうむの時とき、始めて自具じぐの六根ろっこんを見るがごとし。」と仰せです。□に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）（順に）観心、明鏡

（過去問）第5章で大聖人は「我が□を観じて十法界を見る、これを□と云うなり。」と仰せです。□に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）（順に）己心、観心

（過去問）本抄で大聖人は「観心とは、我が□を観じて□を見る、これを観心と云うなり。」と仰せです。□に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）（順に）己心、十法界

### 第8章（自身の心に具わる六道）

◎出題されそうな御文（第2版70頁）

○ 瞋<sup>いか</sup>るは地獄、貪<sup>じごく</sup>るは餓鬼、癡<sup>むさぼ</sup>かは畜生、諂<sup>がき</sup>曲<sup>おる</sup>なるは修羅、喜<sup>ちくしょう</sup>ぶは天、平<sup>てんごく</sup>らかなるは人なり。

(過去問) 第8章で、私たちの心に六道が具わっていることを述べた御文を書きなさい。

(解答) 瞋るは地獄、貪るは餓鬼、癡かは畜生、諂曲なるは修羅、喜ぶは天、平らかなるは人なり。

(過去問) 六道が具わっていることを説明した御文を挙げなさい。

(解答) [上記と同じ]

## 第9章 (自身の心に具わる三乗)

### ◎出題されそうな御文 (第2版74頁)

○ 世間の無常<sup>せけん むじょう がんぜん あ</sup>は眼前<sup>にんかい にじょうかい な</sup>に有り。あに人界<sup>む こ</sup>に二乗界<sup>あくにん</sup>無<sup>さいし</sup>からんや。無顧<sup>じ</sup>の悪人<sup>あい</sup>もなお妻子<sup>ぼ さつかい いちぶん</sup>を慈愛<sup>あい</sup>す。菩薩界<sup>ぼ さつかい いちぶん</sup>の一分なり。

(過去問) 第9章で、私たちの生命に四聖が具足していることについて、具体的な例を挙げて説明しています。このうち、菩薩界が凡夫の生命に具わっていることを示す例として、どのようなことが挙げられていますか。

(解答) 無顧の悪人もなお妻子を慈愛す。菩薩界の一分なり。

(過去問) 四聖のうち、二乗界、また、菩薩界が具わっていることを、大聖人は、それぞれ、どのように説明していますか。

(解答) 二乗界…世間の無常は眼前に有り。あに人界に二乗界無からんや。

菩薩界…無顧の悪人もなお妻子を慈愛す。菩薩界の一分なり。

## 第10章 (凡夫の心に具わる仏界)

### ◎出題されそうな御文 (第2版83頁)

- ① 堯・舜等<sup>ぎょう しゆんとう せいじん</sup>の聖人<sup>ぼんみん</sup>のごときは、万民<sup>へん ぼ な</sup>において偏頗<sup>にんかい ぶつがい いちぶん</sup>無し。人界<sup>にんかい</sup>の仏界<sup>ぶつがい</sup>の一分なり。
- ② 不<sup>ふ</sup>輕<sup>きやう</sup>菩薩<sup>ぼ さつ み</sup>は見るところ<sup>み</sup>の人<sup>ひと</sup>において仏身<sup>ふつ み</sup>を見る。
- ③ 悉達<sup>しつ た い し</sup>太子<sup>にんかい</sup>は人界<sup>にんかい</sup>より仏身<sup>ふつ しん</sup>を成<sup>じやう</sup>ず。

(過去問) 第10章で大聖人は、人界に仏界を具足していることの現証として3つの例を挙げられています。そのうちの1つを書きなさい。

(解答) ①「堯・舜等の聖人のごときは、万民において偏頗無し。人界の仏界の一分なり。」、②「不輕菩薩は見るところの人において仏身を見る。」、③「悉達太子は人界より仏身を成ず。」のうちの1つ

(過去問) 第10章では、人界に仏界が具足していることの証拠として、「堯・舜等の聖人のごときは、万民において偏頗無し。人界の仏界の一分なり。□□は見るところの人において仏身を見る。□□は人界より仏身を成ず。」と仰せです。□□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 不輕菩薩、悉達太子

(過去問) 本抄で大聖人は、人界に仏界を具足している現証を三つ挙げられています。そのうち、不輕菩薩の例を挙げなさい。

(解答) 見るところの人において仏身を見る。

## 第13章 (経典・論書に関する難問に答える)

### ◎出題されそうな御文 (第2版116頁, 117頁)

- ① ただし、諸<sup>しよきやう</sup>経<sup>ほつ け</sup>と法華<sup>そう い きやうもん</sup>との相違<sup>こと お</sup>は経文<sup>ふんみやう</sup>より事<sup>み けん</sup>起<sup>い けん</sup>こつて分明<sup>しやうみやう</sup>なり。未<sup>み</sup>顕<sup>けん</sup>と已<sup>い</sup>顕<sup>けん</sup>と、証<sup>しやうみやう</sup>明<sup>めい</sup>と

ぜっそう にじょう じょう ふ しじょう くじょう とう あらわ  
舌相と、二乗の成・不、始成と久成と等、これを顕す。

- ② 天親・竜樹・馬鳴・堅慧等は内鑑冷然たり。しかりといえども、時いまだ至らざるが故にこれを宣べざるか。

(過去問) 第 13 章で「ただし、諸経と法華との相違は経文より事起こって分明なり。未顕と已顕と、証明と舌相と、□の成・不、始成と□と等、これを顕す。」と、法華経と爾前経との間の根本的な相違を示されています。□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 二乗、久成

(過去問) 第 13 章で「ただし、諸経と法華との相違は経文より事起こって分明なり。□と已顕と、証明と舌相と、二乗の成・不、始成と□と等、これを顕す。」と、法華経と爾前経との間の根本的な相違を示されています。□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 未顕、久成

(過去問) “法華経に比べて、十界の隔絶を説く爾前の諸経こそ実語である”との主張に対して、大聖人は本抄で「ただし、諸経と法華との相違は経文より事起こって分明なり。未顕と已顕と、証明と舌相と、□の成・不、始成と□と等、これを顕す。」と、法華経と爾前経との間に根本的な相違があることを示されています。□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 二乗、久成

#### 第14章 (教主の難問に答えるにあたり、まず難信難解を示す)

##### ◎出題されそうな御文 (第2版126頁)

① 夫れ、仏より滅後一千八百余年に至るまで、三国に経歴して、ただ三人のみ有って始めてこの正法を覚知せり。いわゆる、月支の釈尊、真旦の智者大師、日域の伝教、この三人は内典の聖人なり。

② 竜樹・天親等はいかん。答えて曰わく、これらの聖人は知って言わざるの仁なり。

(過去問) 大聖人は「夫れ、仏より滅後一千八百余年に至るまで、三国に経歴して、ただ三人のみ有って始めてこの正法を覚知せり。」と仰せになり、竜樹や天親は口正法を心の中に知っていたが、外に向かつて言わなかったと述べています。

イ. 下線イ「ただ三人」とは誰のことか、名前を書きなさい。

ロ. 下線ロの理由を本抄の趣旨に沿って書きなさい。

(解答) イ. 釈尊・天台 (智者大師)・伝教 ロ. 説くべき時ではなかったから。

(過去問) “釈尊のような偉大な仏が凡夫の劣心に具わることが信じられない”との疑問に答えるにあたり、大聖人は第 14 章で、法華経が難信難解であることを示し、「三国に経歴して、ただ三人のみ有って始めてこの正法を覚知せり。」と仰せです。「ただ三人」とは誰のことか、名前を書きなさい。

(解答) 釈尊・天台 (智者大師)・伝教

(過去問) 釈尊・天台・伝教の 3 人に対して竜樹や天親は、正法を心の中に知っていたが、外に向かつて言わなかったと述べられています。その理由を本抄の趣旨に沿って書きなさい。

(解答) 時いまだ至らざるが故に (説くべき時ではなかったから)

#### 第15章 (教主の難問に答える)

##### ◎出題されそうな御文 (第2版137頁)

○ 詮ずるところは、一念三千の仏種にあらずんば、有情の成仏、木画二像の本尊は有名

むじつ  
無実なり。

(過去問)「詮ずるところは、にあらずんば、有情の成仏、木画二像の本尊は有名無実なり。」の御文のに入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) 一念三千の仏種

## 第16章 (受持即観心を明かす)

◎出題されそうな御文 (第2版148~151頁)

- ①「**いまだ六波羅蜜を修行することを得ずといえども、六波羅蜜は自然に在前す**」
- ② **釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華經の五字に具足す、我らこの五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう。**
- ③「**無上の宝珠は、求めざるに自ずから得たり**」云々。**我らが己心の声聞界**なり。
- ④「**我がごとく等しくして異なることなからしめん。我が昔の願いしところのごときは、今、すでに満足しぬ。一切衆生を化して、皆仏道に入らしむ**」。**妙覚の釈尊は我らが血肉なり。因果の功徳は骨髓にあらずや。**
- ⑤「**しかるに、我は実に成仏してより已来、無量無辺百千万億那由他劫なり**」等云々。**我らが己心の釈尊は、五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり。**
- ⑥「**我は本菩薩の道を行じて、成ぜしところの寿命は、今なおいまだ尽きず、また上の数に倍せり**」等云々。**我らが己心の菩薩等**なり。
- ⑦ **上行・無辺行・浄行・安立行等は我らが己心の菩薩**なり。
- ⑧ **妙楽大師云わく「当に知るべし、身土は一念の三千なり。故に、成道の時、この本理に称って、一身一念法界に遍し**」等云々。

(過去問)“釈尊のような偉大な仏に凡夫の劣心が具わることが信じられない”との疑問に対する答えとして、大聖人は第16章で法華經の「受持即観心」の法門を明かされました。その御文を書きなさい。

(解答) 釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華經の五字に具足す、我らこの五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう。

(過去問) 第16章では、經文等を挙げられた後、会通を加えられ、「受持即観心」の法門を明かされます。「受持即観心」の法門を明かした御文を書きなさい。

(解答) [上記と同じ]

(過去問)「受持即観心」の法門を明かした御文を書きなさい。

(解答) [上記と同じ]

(過去問)「受持即観心」によって己心に顕れる四聖について、大聖人は第16章で法華經の經文を引用して示されています。次のイ~ハの御文が、それぞれどの御文と対応しているか、後ろの〈經文〉1~3の中から選び、番号で答えなさい。

イ. 我らが己心の声聞界なり      ロ. 我らが己心の菩薩等なり      ハ. 我らが己心の釈尊は五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり

1. 「しかるに、我は実に成仏してより已来、無量無辺百千万億那由他劫なり」

2. 「無上の宝珠は、求めざるに自ずから得たり」

3. 「我は本菩薩の道を行じて成ぜしところの寿命は、今なおいまだ尽きず、また上の数に倍せり」

(解答) イ. 2      ロ. 3      ハ. 1

(過去問)「受持即観心」によって己心に顕れる四聖について、第16章で法華經の經文を引用して示されています。次のイ～ハの御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

イ. 『無上の宝珠は、求めざるに自ずから得たり』云々。我らが己心の□なり。」

ロ. 「我らが己心の□は、五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり。」

ハ. 「上行・無辺行・浄行・安立行等は我らが己心の□なり。」

(解答) イ. 声聞界      ロ. 釈尊      ハ. 菩薩

(過去問)「受持即観心」によって得られる境地について示した次の1～3の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

1. 『無上の宝珠は、求めざるに自ずから得たり』云々。我らが□なり。」

2. 「妙覺の釈尊は我らが血肉なり。□は骨髓にあらずや。」

3. 「上行・無辺行・浄行・安立行等は我らが□なり。」

(解答) 1. 己心の声聞界      2. 因果の功德      ハ. 己心の菩薩

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「妙樂大師云わく『当に知るべし、身土は一念の三千なり。故に、成道の時、この本理に称って、□法界に遍し』等云々。」

(解答) 一身一念

(過去問)『摩訶止観』の一念三千の文を釈した妙樂大師の文について、「妙樂大師云わく『当に知るべし、身土は一念の三千なり。故に、成道の時、この本理に称って、一身一念□』等云々。」と仰せです。□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) 法界に遍し

## 大段第二(2) (本尊を明かす)

### 第19章 (本門の本尊を明かす)

#### ◎出題されそうな御文 (第2版179～180頁)

① この本門の肝心・南無妙法蓮華經の五字においては、仏なお文殊・薬王等にもこれを付嘱したまわず。いかにいわんや、その已下をや。ただ地涌千界を召して、八品を説いてこれを付嘱したもう。

② その本尊の為体は、本師の娑婆の上に宝塔空に居し、塔中の妙法蓮華經の左右に釈迦牟尼仏・多宝仏、釈尊の脇士たる上行等の四菩薩、文殊・弥勒等は四菩薩の眷属として末座に居し、迹化・他方の大小の諸の菩薩は万民の大地に処して雲客月卿を見るがごとく、十方の諸仏は大地の上に処したもう。迹仏・迹土を表する故なり。

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「この本門の肝心・南無妙法蓮華經の五字においては、仏なお文殊・薬王等にもこれを付嘱したまわず。いかにいわんや、その已下をや。ただ□を召して、八品を説いてこれを付嘱したもう。」

(解答) 地涌千界

(過去問) 本抄の後半では、末法の衆生が受持すべき「本尊」について論じられています。まず、爾前・迹門で説かれる国土と、本門の国土の違いについて述べられた後、末法出現の本尊の為体を詳しく示されます。この本尊の為体を示した御文を書きなさい。

(解答) その本尊の為体は、本師の娑婆の上に宝塔空に居し、塔中の妙法蓮華經の左右に釈迦牟尼仏・多宝仏、釈尊の脇士たる上行等の四菩薩、文殊・弥勒等は四菩薩の眷属として末座

に居し、迹化・他方の大小の諸の菩薩は万民の大地に処して雲客月卿を見るがごとく、十方の諸仏は大地の上に処したもう。迹仏・迹土を表する故なり。

### 第21章～第24章（五重三段）（第2版230頁）

《五重三段》		序分	正宗分	流通分
第一重	一代一經三段	爾前經	法華經と開結の10巻	涅槃經
第二重	法華十卷三段	無量義經と法華經序品	方便品～分別功德品の前半	分別功德品の後半～普賢經
第三重	迹門熟益三段	無量義經と法華經序品	方便品～人記品	法師品～安樂行品
第四重	本門脱益三段	從地涌出品の前半	一品二半（從地涌出品の後半、如来寿量品、分別功德品の前半）	分別功德品の後半～普賢經
第五重	文底下種三段	一切の仏の無数の經典	末法のための一品二半（法華經の肝心である南無妙法蓮華經）	（妙法に基づいた）一切の仏の無数の經典

（過去問）「五重三段」のそれぞれの正宗分を述べなさい。

（解答）[上記の表を参照]

（過去問）「五重三段」のうち、「本門脱益三段」「文底下種三段」それぞれの序分、正宗分、流通分を述べなさい。

（解答）[上記の表を参照]

### 第25章（法華經で成仏する対象の中心）

#### ◎出題されそうな御文（第2版221頁）

○ 在世の本門と末法の初めは一同に純円なり。ただし、彼は脱、これは種なり。彼は一品二半、これはただ題目の五字なり。

（過去問）大聖人は「在世の本門と末法の初めは一同に純円なり。ただし、彼は□、これは種なり。彼は一品二半、これはただ□なり。」と仰せになっています。□に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）（順に）脱、題目の五字

（過去問）第25章では、「在世の本門」と「末法の初め」を対比して、種脱相對を明かされています。このうち、教法の違いについて述べた御文を書きなさい。

（解答）彼は一品二半、これはただ題目の五字なり。

（過去問）本抄では、末法出現の本尊こそが、釈尊一代の諸經、さらには三世諸仏の經々において最も肝要であることを「五重三段」によって論じられています。その結論として「在世の本門と末法の初めは一同に□なり。ただし、彼は□、これは□なり。彼は□、これはただ□なり」と仰せられています。

イ、「五重三段」それぞれの序分・正宗分・流通分を挙げなさい。（解答用紙の表を完成させなさい）

ロ、下線部の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）イ．[上記の表を参照] ロ．（順に）純円、脱、種、一品二半、題目の五字

### 第27章（本門の正宗分の文を引く）

#### ◎出題されそうな御文（第2版250頁）



○ 本門の四依の地涌千界は、末法の始めに必ず出現すべし。今の「使いを遣わして還つて告ぐ」は地涌なり。「この好き良薬」とは寿量品の肝要たる名・体・宗・用・教の南無妙法蓮華經これなり。

(過去問) 第 27 章では、寿量品の「良医病子の譬え」に説かれている「遣使還告」「是好良薬」について論じられています。それぞれが示している、末法弘通の「人」と「法」を書きなさい。

(解答) 人…地涌の菩薩 法…南無妙法蓮華經

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「今の『使いを遣わして還つて告ぐ』は地涌なり。「この好き良薬」とは□の肝要たる名・体・宗・用・教の□これなり。」

(解答) (順に) 寿量品、南無妙法蓮華經

(過去問) 寿量品の「良医病子の譬え」について、本抄では、「今の『使いを遣わして還つて告ぐ』は□なり。『この好き良薬』とは寿量品の肝要たる名・体・宗・用・教の□これなり。」と仰せです。□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 地涌、南無妙法蓮華經

## 第29章 (地涌の菩薩が出現する時は悪世末法)

◎出題されそうな御文 (第 2 版 272 頁, 285 頁)

① 法師品に云わく「いわんや滅度して後をや」。寿量品に云わく「今留めてここに在く」。分別功德品に云わく「悪世末法の時」。薬王品に云わく「後の五百歳、閻浮提に広宣流布せん」。涅槃經に云わく「譬えば、七子あり、父母平等ならざるにあらざれども、しかも病者において心則ちひとえに重きがごとし」等云々。已前の明鏡をもって仏意を推知するに、仏の世に出ずるは靈山八年の諸人のためにあらず、正像末の人のためなり。また正像二千年の人のためにあらず、末法の始め予がごとき者のためなり。「しかも病者において」と云うは、滅後の法華經誹謗の者を指すなり。「今留めてここに在く」とは、「この好き色・香ある薬において、しかも美からずと謂う」の者を指すなり。

② この四菩薩、折伏を現ずる時は賢王と成つて愚王を誠責し、摂受を行ずる時は僧と成つて正法を弘持す。

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「この四菩薩、□を現ずる時は賢王と成つて愚王を誠責し、摂受を行ずる時は僧と成つて□を弘持す。」

(解答) (順に) 折伏、正法

(過去問) 第 29 章では、四菩薩が末法に出現するありさまについて論じられています。「折伏を實踐する時」「摂受を行ずる時」の具体的なありさまについて書きなさい。

(解答) 折伏を實踐する時…「賢王と成つて愚王を誠責し」の趣旨

摂受を行ずる時…「僧と成つて正法を弘持す」の趣旨

(過去問) 本抄では、四菩薩が末法に出現する具体的なありさまについて、折伏を現ずる時と摂受を行ずる時があると述べられています。そのうち、折伏を現ずることを示す御文を書きなさい。

(解答) 折伏を現ずる時は賢王と成つて愚王を誠責し

## 第30章 (仏の予言を明かす)

◎出題されそうな御文 (第 2 版 293 頁, 298 頁, 304 頁)

① 仏の記文はいかん。答えて曰わく、「後の五百歳、閻浮提に広宣流布せん」と。天台大師、記して云わく「後の五百歳、遠く妙道に沾わん」。妙楽、記して云わく「末法の初め、冥利無きにあらず」。伝教大師云わく「正像やや過ぎ已わって、末法はなはだ近きに有り」

② この釈に「鬪諍の時」云々。今の自界叛逆・西海侵逼の二難を指すなり。この時、地涌千界出現して、本門の釈尊を脇士となす一閻浮提第一の本尊この国に立つべし。

③ これをもってこれを惟うに、正像に無き大地震・大彗星等出来ず。(中略) ひとえに四大菩薩出現せしむべき先兆なるか。天台云わく「雨の猛きを見て竜の大なるを知り、華の盛んなるを見て池の深きを知る」等云々。妙楽云わく「智人は起を知り、蛇は自ら蛇を識る」等云々。

④ 天晴れぬれば地明らかなり。法華を識る者は世法を得べきか。

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「天晴れぬれば地明らかなり。□を識る者は世法を得べきか。」

(解答) 法華

(過去問) 本抄では、末法の広宣流布を予言した法華経や天台・伝教などの言葉を挙げ、「この釈に『鬪諍の時』云々。今の□1・西海侵逼の二難を指すなり。この時、地涌千界出現して、本門の釈尊を脇士となす一閻浮提第一の□2この国に立つべし。」と宣言されています。また、正法・像法時代にはなかった天変地異が起こっているのは、地涌の菩薩が出現する先兆であるとの確信をこめて、「天晴れぬれば地明らかなり。法華を識る者は□3を得べきか。」と仰せになります。この御文の□1～□3に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) 1. 自界叛逆 2. 本尊 3. 世法

## 大段第三 (総結)

### 第31章 (総結)

◎出題されそうな御文 (第2版311頁)

○ 一念三千を識らざる者には、仏、大慈悲を起し、五字の内にこの珠を裹み、末代幼稚の頸に懸けしめたもう。

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「□を識らざる者には、仏、□を起し、五字の内にこの珠を裹み、末代幼稚の頸に懸けしめたもう。」

(解答) (順に) 一念三千、大慈悲

(過去問) 次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。「□を識らざる者には、仏、大慈悲を起し、五字の内にこの珠を裹み、□幼稚の頸に懸けしめたもう。」

(解答) (順に) 一念三千、末代

(過去問) 本抄の結びにおいて「一念三千を識らざる者には、仏、大慈悲を起し、五字の内にこの珠を裹み、末代幼稚の頸に懸けしめたもう。」と述べられています。この御文を、「日蓮大聖人」と「末法の衆生」と「御本尊」の言葉を用いて説明しなさい。

(解答例) 御本仏日蓮大聖人が大慈悲を起して、南無妙法蓮華経の御本尊を図顕され、末法の衆生である私たちに信受させてくださる。

以上